

変革の時代における産学官連携

～なぜ「知」を価値づける必要があるのか？

パネルディスカッション

2021年1月22日

EDiX Professional Group 江戸川公認会計士事務所
代表パートナー 江戸川 泰路

自己紹介

太田昭和監査法人（現 EY新日本有限責任監査法人）入所後、主として、大手化学メーカー等の製造業の会計監査を担当しつつ、ライフサイエンス関連企業やIT関連企業をはじめとする多くの株式上場を支援。2003年より産学連携支援を開始し、大学や研究機関との間に大学等発ベンチャー支援の包括契約を行うなど数多くの大学等発ベンチャーの立ち上げや成長支援に関与。2019年7月に独立開業。現在は、テクノロジー関連企業の支援に注力する他、中央省庁等のイノベーション関連施策に外部委員として数多く携わっている。

【経歴】

- ▶ 2019年7月 EDiX Professional Group 江戸川公認会計士事務所 開業 代表パートナー
- ▶ 2015年7月 同法人 企業成長サポートセンター 副センター長
- ▶ 2010年7月 同法人 パートナー
- ▶ 1999年5月 公認会計士登録
- ▶ 1997年4月 太田昭和監査法人(現 EY新日本有限責任監査法人)入所

【主な業務内容】

- ▶ コンサルティング
 - ▶ スタートアップ向け
 - ▶ 大学・研究機関向け
 - ▶ VC・大企業等投資家向け
 - ▶ 地方自治体向け
- ▶ CFO養成プログラム
- ▶ CFO・管理業務受託

パネルディスカッション（前半）の対象

◆ ガイドライン追補版3つの特徴

- ① 産学官連携を「コスト」ではなく「価値」への投資としてとらえ、「知」を価値付け（値付け）する手法を整理
- ② 「組織」から大学発ベンチャーを含む「エコシステム」へと視点を拡大
- ③ 大学等と産業界の両者を対等なパートナーとして、産業界向けの記載を新たに体系化

知への価値づけ

1. 価値を考慮したプライシングへ

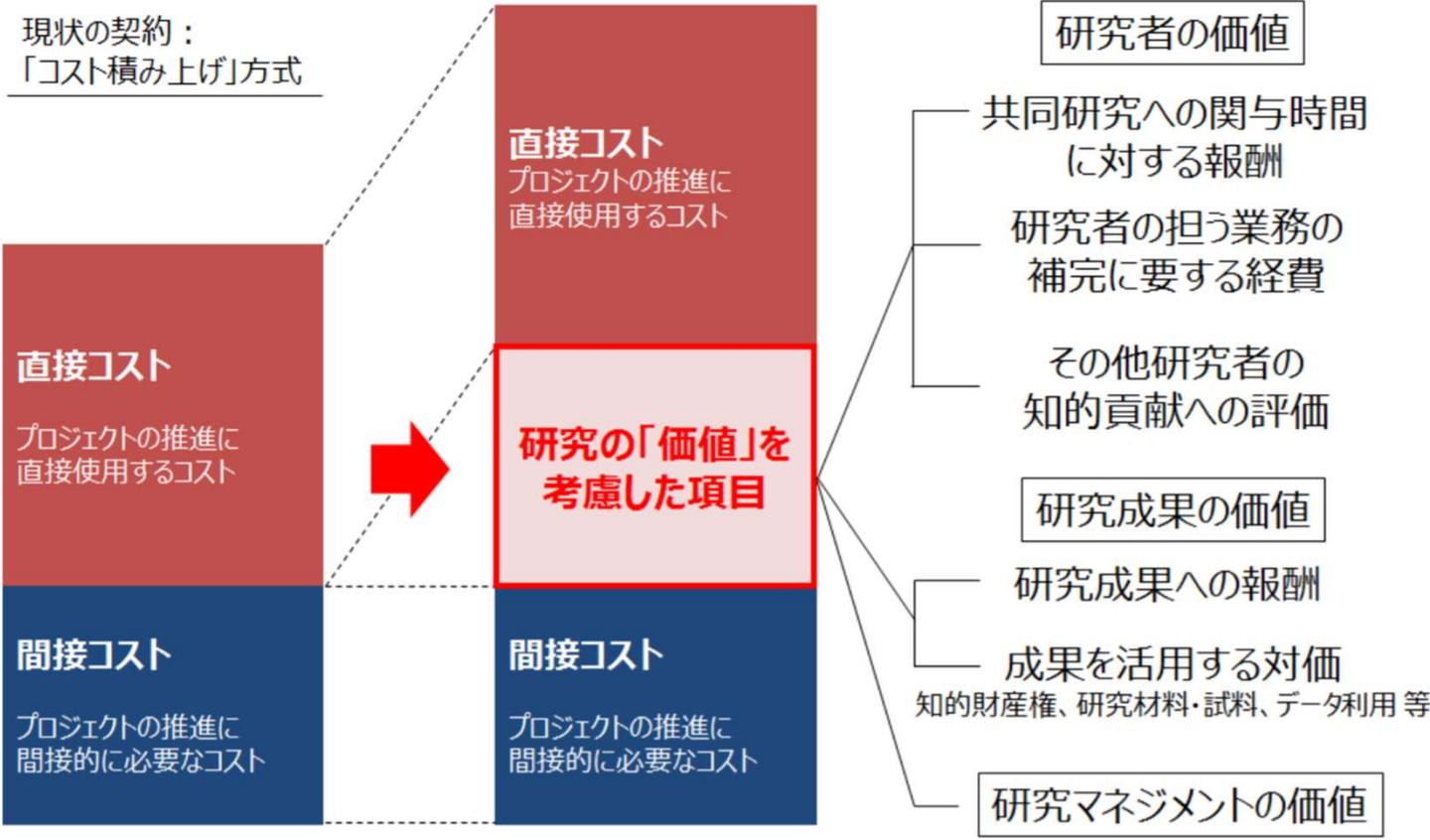


図 A-2 : 「価値」を考慮した契約の概念図と「知」の価値付けの種類

知への価値づけ

2. 国等からの競争的資金と企業からの収入

- ◆ 国等からの競争的資金
 - 大学が行う研究
 - 収入の性質：当該研究に係る経費の追加的な補助
 - 金額：直接経費＋間接経費（直接経費の一定比率）が合理的
 - 間接経費の用途：予算執行に係る規制

知への価値づけ

2. 国等からの競争的資金と企業からの収入

◆ 競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針

□ 間接経費の使途

- 間接経費は、競争的資金を獲得した研究者の研究開発環境の改善や研究機関全体の機能の向上に活用するために必要となる経費に充当する。具体的な項目は別表 1 に規定する。

□ 報告

- 被配分機関の長は、証拠書類を適切に保管した上で、毎年度の間接経費使用実績等を翌年度の6月30日までに、別紙様式により配分機関に報告すること。

知への価値づけ

2. 国等からの競争的資金と企業からの収入

(別表1)

間接経費の主な使途の例示

被配分機関において、競争的資金による研究の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費(「3. 間接経費導入の趣旨」参照)のうち、以下のものを対象とする。

- (1) 管理部門に係る経費
 - (ア) 管理施設・設備の整備、維持及び運営経費
 - (イ) 管理事務の必要経費
 - 備品購入費、消耗品費、機器借料、雑役務費、人件費、通信運搬費、謝金、国内外旅費、会議費、印刷費
 など
- (2) 研究部門に係る経費
 - (ウ) 共通的に使用される物品等に係る経費
 - 備品購入費、消耗品費、機器借料、雑役務費、通信運搬費、謝金、国内外旅費、会議費、印刷費、新聞・雑誌代、光熱水費
 - (エ) 当該研究の応用等による研究活動の推進に係る必要経費
 - 研究者・研究支援者等の人件費、備品購入費、消耗品費、機器借料、雑役務費、通信運搬費、謝金、国内外旅費、会議費、印刷費、新聞・雑誌代、光熱水費
 - (オ) 特許関連経費
 - (カ) 研究棟の整備、維持及び運営経費
 - (キ) 実験動物管理施設の整備、維持及び運営経費
 - (ク) 研究者交流施設の整備、維持及び運営経費
 - (ケ) 設備の整備、維持及び運営経費
 - (コ) ネットワークの整備、維持及び運営経費
 - (サ) 大型計算機(スパコンを含む)の整備、維持及び運営経費
 - (シ) 大型計算機棟の整備、維持及び運営経費
 - (ス) 図書館の整備、維持及び運営経費
 - (セ) ほ場の整備、維持及び運営経費
 など
- (3) その他の関連する事業部門に係る経費
 - (ソ) 研究成果展開事業に係る経費
 - (タ) 広報事業に係る経費
 など

※上記以外であっても、競争的資金を獲得した研究者の研究開発環境の改善や研究機関全体の機能の向上に活用するために必要となる経費などで、研究機関の長が必要な経費と判断した場合、執行することは可能である。なお、直接経費として充当すべきものは対象外とする。

(別紙様式)

競争的資金に係る間接経費執行実績報告書(平成〇〇年度)

1. 間接経費の経理に関する報告
(単位: 千円)

(収入)			
競争的資金の種類	間接経費の納入額	備考	
〇〇研究費補助金	〇〇,〇〇〇		
〇〇制度	〇,〇〇〇		
合計	〇〇,〇〇〇		
(支出)			
経費の項目	執行額	使途	具体的な使用内容
1. 管理部門に係る経費			
①人件費	〇〇,〇〇〇		
②物件費	〇,〇〇〇		
③施設整備関連経費	〇,〇〇〇		
④その他			
2. 研究部門に係る経費			
①人件費	〇,〇〇〇		
②物件費	〇〇,〇〇〇		
③施設整備関連経費	〇〇,〇〇〇		
④その他			
3. その他の関連する事業部門に係る経費			
①人件費	〇,〇〇〇		
②物件費	〇〇,〇〇〇		
③施設整備関連経費	〇〇,〇〇〇		
④その他			
合計	〇〇,〇〇〇		

※「競争的資金の種類」については、内閣府ホームページに掲載されている「競争的資金制度一覧」中の制度名を記入し、その競争的資金制度による間接経費を受け入れた額について記入してください。なお、当該ホームページ中に該当する制度名がない場合は、当該競争的資金制度の配分機関に確認してください。

(参考)内閣府ホームページ <http://www8.cao.go.jp/cstp/compfund/>

※「使途」については、(別表1)にある(ア)～(タ)の分類に沿って記入してください。(複数項目記入可)

(ア)～(タ)以外に使用した場合は、(チ)と記入してください。

※「具体的な使用内容」については、「使途」が(イ)～(エ)に該当する場合に、別表1の各項目にある具体的な使用内容を踏まえて、記入してください。また、(チ)に該当する場合も、具体的な使用内容について、記入してください。

知への価値づけ

2. 国等からの競争的資金と企業からの収入

- ◆ 企業からの収入（共同研究契約等）
 - 企業の事業活動に関連した研究
 - 収入の性質：企業に対する支援の対価
 - 金額：コスト積み上げに限らず、提供する価値や交渉により多様な方式があり得る
 - 間接経費の用途：制限のない独自財源

①交渉時の料金設定の選択肢、②間接経費に係る予算運用の観点で、
国等からの競争的資金と切り離して仕組みを構築することが重要

知への価値づけ

3. 考えられる料金設定方法の代表例3つ + a

◆ 追補版3つの料金設定方法

① 総額方式

- 料金総額を価値ベースで決定

② タイムチャージ方式

- 直接コスト + 常勤教員の直接関与時間に対するタイムチャージ※ + 間接コスト

※タイムチャージは直接コスト

③ コスト積み上げ方式

- 直接コスト + 間接コスト (直接コスト × 一定比率)

◆ 成功報酬・成果報酬

- 企業と共同研究契約を締結する際に、共同研究の成果に応じて、終了後に成功報酬・成果報酬として受け取る契約を結ぶことも可能

知への価値づけ

4. 企業からの収入に係る料金、予算、会計の関係

- ◆ 企業からの収入の場合、予算・会計上の直接経費・間接経費は、必ずしも企業向けに積算した直接コスト、間接コストと一致させる必要はなく、総額から直接経費を引いた差額が間接経費（相当額）となる。

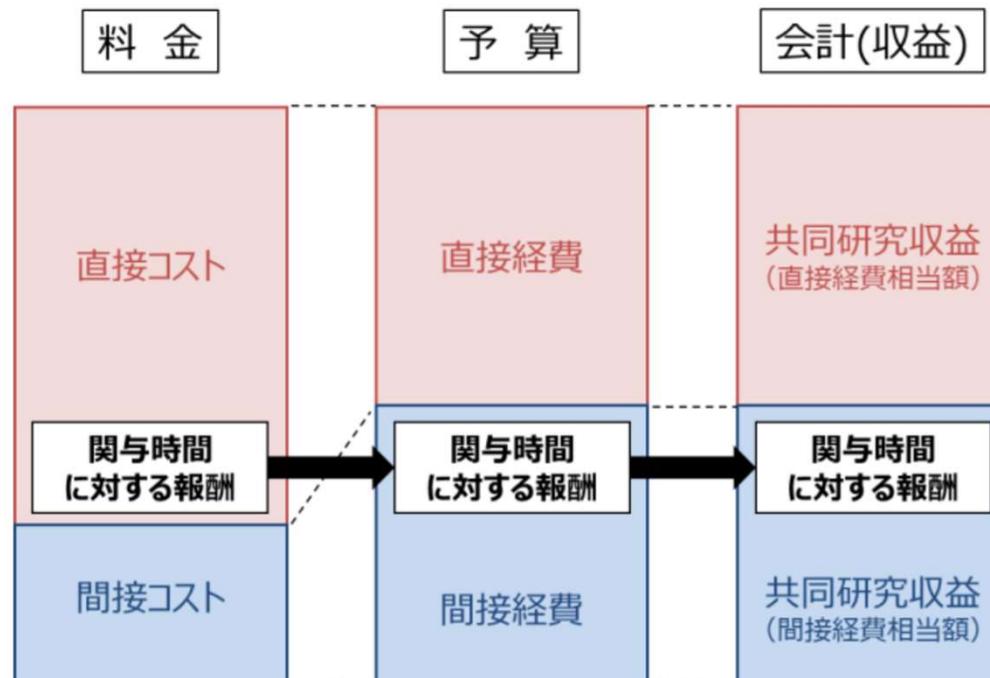


図 A-4 : 直接コストとして積算する場合の予算・会計上の取扱いイメージ図

知への価値づけ

5. タイムチャージレートの一例

◆ 設例

- 年間人件費(A) : 1,500万円
- 年間労働時間(B) : 1,500時間
- A/B(C) : 10,000円

◆ 研究時間の割合

- 100%



- 20%(D)



◆ 研究時間の割合考慮後

- C/D : 50,000円

～本件に関するお問い合わせ先～

EDiX Professional Group
江戸川公認会計士事務所
代表パートナー 公認会計士 江戸川 泰路

107-0062
東京都港区南青山二丁目2番8号 DFビル5階
taiji.edogawa@edix.tokyo

